

令和2年度

経済学部

推薦入試

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないこと。
2. この問題冊子は、全部で5ページ、解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚である。試験開始の合図があってから確認すること。
なお、試験問題に文字などの印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れなどがあった場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
3. 試験開始後に、解答用紙の指定欄に受験番号を算用数字で記入すること。氏名を書いてはいけない。
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。解答は、解答用紙の所定欄に記入しなさい。
解答用紙の所定欄以外に記入した解答は、評価（採点）の対象としない。
5. 配布された問題冊子および下書き用紙は、試験終了後、持ち帰ること。

実施年月日
1.11.27
富山大学

令和2年度富山大学推薦入試・社会人入試

問題訂正

○11月27日(水)

小論文 9時30分試験開始 経済学部「昼間主コース」「夜間主コース」

解答用紙「2枚中の1枚目」の〔設問2〕

(正)「資本主義という経済システム」

(誤)「資本主義の原理」

【問題1】次の文章を読んで、[設問1]から[設問4]に答えなさい。解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

スミス(注1)が考える貧困のない生活とは、単に生命の維持に必要な、最低限の物資が確保されている生活ではない。「あの人は人並みの生活をしていないのではないか」と、他人からいぶかし気な目線で見られたり、人としての自負と尊厳を保てないような境遇に置かれていれば、かりに生活物資は満たされていたとしても、それはむしろ、貧困な生活なのである。人間は、人間であるという一事だけで、自らを①尊厳ある存在として主張することができる。それが、自由・平等とともに、およそ近代社会が満たさなくてはならない、最低限の条件であったはずだ。

そもそも近代社会とは、誰もが、自らを尊厳ある主体として主張できる社会のことを言うものだろう。そのためには、それぞれの人、自分で自分の生活を自立させる権利を、身分に関わりなく、等しく認められることが必要である。近代社会が市場社会をその根底に求めた第一の理由はここにあった。自分が自分であること、それは、自分が他人に受け入れられていると思えてはじめて、そう感じられることであって、そのとき人は自分を自分と思い、自分を自由と思い、他者と比べて平等だと実感する。これを一言で表現したもの、それが「尊厳」という、いささかいかめしい言葉なのである。それは必需品と同じように、保たれているあいだはそれと意識することはないが、いざ失ってみると、たちどころにその喪失を思い知り、慄然とさせられるものだろう。だから、人が尊厳を保てない社会があったら、それもまた、スミスの意味では、貧困な社会ということになるだろう。

自分が他人に支配され、他人の恣意に従わされているとき、人はけっして自分の尊厳を確信しない。慣れてしまえば苦痛も感じなくなるのかもしれないが、他人の恣意に従わされている限り、人はかならず何かの拍子に、自身の尊厳の欠如を思い出す。だから、人が人を支配することをやめ、対等の者どうし、それぞれの役割を果たすことで社会の秩序を維持していく。それが、近代市場社会の大原則になった。

ところが、その市場社会を実際に担ったのは、資本主義経済という一つの経済システムだった。そこでは、資本家と労働者という、あたかも身分のような人間関係が再現されていた。それは、経済学においては、はじめから社会的な関係として語られることが多いけれども、じっさいに、人々が身分のようなものを感じることは、多くの場合働く現場、つまりは「企業」においてであろう。確かに、従業員が経営者に従う関係は、労働協約等によって法的に(つまり近代的に)定められたことのはずではあるものの、その真の効力が、契約よりも根深い情緒的なもの、あるいは慣習的なもの、場合によっては道徳的とされるものによって支えられているとしたら、その起源はおそらく、近代以前から存在する何かにある。資本主義は近代市場経済の原理として、それじたいは近代的な現象として語られるのが普通だけれども、資本主義を担う企業には、どこか前近代を彷彿とさせる光景が、美意識の裏づけとともに残されていると感じられることがある。もし企業という存在が、はじめから、その隅々に至るまで近代的な契約関係として作られていたとしたら、果たして、資本主義経済は、あるいは産業経済は機能しただろうか。

②市場社会の原則と資本主義という経済システムとのあいだには、微妙な差異があるということ。このことに、わたしたちはもう少し、敏感になる必要があるのではないだろうか。そして、スミスの時代とはじつは、市場社会が社会のほぼ全域にまで浸透しながらも、資本主義経済には微妙に成り切っていない、きわめて稀少な時期に属するのである。資本家と労働者への階級分裂はまだ完成しておらず、そのどちらの階級に進むかを、あたかも自分で選択できるかのような表現が、『国富論』(注2)ではあちらこちらに出てくる。『国富論』を読むときには、この微妙なタイミング(のズレ)にぜひとも留意

する必要があるのである。

ただ、いくら「自分は尊厳ある存在だ！」と主張してみても、それを他人が認めないのでは、それは尊厳にならない。自己の尊厳とは、他人がその尊厳を承認してはじめて尊厳としての意味を持つのであり、家族にせよ職場の同僚にせよ、自分の周囲の人々に、自分という人間が一個の人格を持つ存在として、その人格のまま受け入れられているという実感がない限り、つまりは、自分の尊厳が承認されているという実感がない限り、人は自分を「尊厳ある存在」として自覚することはできないだろう。

③尊厳は、自身の精神的基盤でありながら、それが成立するためには、他者という存在が不可欠である。他者がまずいて、その他者との関係性が先に存在していない限り、個人の尊厳は成立しないのである。そして尊厳の自覚を欠いたまま、人が自己の主体性を自覚することは、おそらく不可能である。ここに、経済学的主体像の一つの虚構がある。経済学では、他者の存在を前提せずに、あるいは、他者の存在を知る前から、先に「私的個人 (private individual)」としての自覚が成立するものと想定する。そして、その「私的個人」の意思によって、他者との関係が後から作られていくのである。経済学は、時代を問わず、学派を問わず、この個人像だけは共有してきた。だから、経済学における「個人」には、尊厳を失うことへの恐怖がない。というより、およそ尊厳というものへの（特に、それが失われることがあるのだということへの）関心がない。ここに、他者からの「承認」を繰り返し得ることを通じて、はじめて「個人」が析出されてくると説くスミスとの、大きな違いがある。

さて、④スミスは、こうした自己の尊厳を守るためにも、すなわち、他者からさげすみの目線を受けないようにするためにも、人並みの必需品と便益品を持つことが必要だと考える。互いに互いの尊厳を守ろうとする意思は、所有物の多寡によって左右されるべきものではないけれども、人並みの物質生活を送っているように見えることが、他者からの目線を気にせず済むようになるための、もっとも効果的な防壁になることも確かである。だから、物的な意味でも、精神的な意味でも、誰もが人並みの必需品と便益品を持てるようにすることが先決であり、そのためには、それらが全員に行き渡るだけの生産量と、全員に行き渡らせる分配の仕方が必要になる。この二つの役割を果たすもの、それがあの「分業」なのである。

出典：井上義朗『いま読む！名著 「新しい働き方」の経済学 アダム・スミス『国富論』を読み直す』（現代書館、2017年）26-30頁（問題作成において、文章や語句などを一部省略・修正した。）

注1：イギリスの古典派経済学者。『国富論』の著者。

注2：『諸国民の富の本質と原因に関する一考察』(An inquiry into the Nature and Cause of the Wealth of the Nations)。1776年出版にされ、経済学の原点とされる。

〔設問1〕下線部①に関して、「尊厳」について著者が説明している最も適当な文の最初と最後の5字を抜き出さない。

〔設問2〕下線部②に関して、「市場社会の原則」と「資本主義という経済システム」とはどのようなものか。「微妙な差異」が明らかになるようにそれぞれ60字以内で説明しなさい。

〔設問3〕下線部③に関して、尊厳の成立にはなぜ他者が不可欠なのか。50字以内で文中から抜き出さなさい。

〔設問4〕下線部④に関して、スミスは「必需品」として最小限の食べ物や最低限の着る物といったような、それがなければすぐに死んでしまうような、生命維持レベルの物資のことだけを考えていたのではない。それを持っていないと、「まともな人間」として他人から見てもらえなくなりそうな、あるいは人並みの人に思われなくなりそうな、そういう物品と（その物品を持っているという事実によって証明される）暮らしぶりのことも含めて、「必需品」と表現した。現代におけるこうした「必需品」としてはどのようなものが考えられるか。例を挙げてその理由を200字以内で説明しなさい。

【問題2】2019年8月に米国の新聞（Washington Post）に掲載された次の文章を読んで，[設問1] から [設問5] に答えなさい。解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

著作物引用箇所のため非公開

出典：Fareed Zakaria “Major world economies are becoming increasingly isolationist. Except those in [...].” Opinions at *Washington Post*, August 30, 2019 ([https://www.washingtonpost.com/opinions/major-world-economies-are-becoming-increasingly-isolationist-except-those-in-\[/2019/08/29/5501ec28-ca9d-11e9-a4f3-c081a126de70_story.html](https://www.washingtonpost.com/opinions/major-world-economies-are-becoming-increasingly-isolationist-except-those-in-[/2019/08/29/5501ec28-ca9d-11e9-a4f3-c081a126de70_story.html))を基に作成(なお，問題作成にあたり，題名および文章の一部に加筆・修正・削除を施した。)

注：

propel：推進する

mercantilist mode：重商主義的なモード

superpower：スーパーパワー（超大国）

global supply chains：グローバル・サプライチェーン

the International Monetary Fund (IMF)：国際通貨基金

game changer：ゲームチェンジャー（物事の動向やルールを大きく変化させるものや人）

dynamism：ダイナミズム

〔設問1〕 (ア) に入る単語として最も適切なものを、以下の4つの中から1つ選択し、記号で解答しなさい。

- (a) depressed
- (b) promising
- (c) blooming
- (d) catastrophic

〔設問2〕 (イ) ~ (オ) に入る国名や地域名を、以下の6つの中からそれぞれ1つ選択し、記号で解答しなさい。

- (a) China
- (b) Africa
- (c) Russia
- (d) Britain
- (e) Southeast Asia
- (f) the United States

〔設問3〕 下線部①を200字以内で和訳しなさい。

〔設問4〕 (カ) の中に入る以下の7つの単語を並び替えて、下線部②の文章を完成させなさい。

reform such than enact laws actually to

〔設問5〕 下線部③の2つの文章を念頭におきつつ、下線部④の this が何を指しているのかを140字以内の日本語で答えなさい。

下書き用紙

見本

下書き用紙

見本